

1. カンボジア野党党首に逮捕状、対立激化も

11/13、カンボジアの裁判所は、フン・セン政権の閣僚に対する名誉毀損などの容疑で、野党カンボジア救国党のサム・レンシー党首に逮捕状を出した。サム・レンシー氏は現在、韓国を訪問しており、帰国すれば逮捕、収監される見通し。フン・セン首相率いる与党カンボジア人民党との政治対立が激化する恐れがある。サム・レンシー氏は2008年の演説で「ホー・ナムホン副首相兼外相は旧ポル・ポト政権の幹部だった」と発言。フランス亡命中に名誉毀損などの罪で有罪判決が出ており、今回の逮捕容疑はこの判決に基づく。判決後、シハモニ国王が恩赦を決定、サム・レンシー氏は13年に帰国した。サム・レンシー氏は最近の日本訪問で、18年に予定される総選挙を人民党が中止する可能性があるなどと発言。フン・セン氏は「名誉を傷つけられた」として法的措置を取ると警告していた。13年の総選挙で大きく躍進した救国党は、ベトナムとの国境線画定問題などをめぐり人民党と鋭く対立。先月末には救国党のケム・ソカ副党首が、人民党の賛成多数で下院第1副議長の職を解任された。

2. 野党党首、議員資格を喪失＝帰国なら逮捕

11/16、カンボジア下院は声明で、カンボジア救国党のサム・レンシー党首が議員資格を喪失したと発表した。7年前の名誉毀損(きそん)事件でプノンペンの裁判所が13日に同党首の逮捕状を出したのに伴う措置。サム・レンシー党首は韓国に滞在中。警察当局は帰国次第逮捕する方針だが、同党首はフェイスブックを通じ「数日中にカンボジアに戻る」と表明した。フン・セン首相が野党批判を強める中で逮捕状が突如出たことから、「政治的動機に基づく逮捕状を撤回すべきだ」(国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチ)と非難の声が上がっている。

3. 高級木材のベトナム向け密輸、北東部で横行

ベトナム国境に近いカンボジア北東部のラタナキリ州で、木材の密輸が横行している。関係者が9日に大規模な密輸の現場を確認。警察に制止されることもなく、木材を積んだ200台近くのバイクが国境を越えてベトナム領内に侵入していく光景を目撃した。この関係者は、「これまで数台のバイクが木材を密輸していることは知っていたが、密輸バイクの大群を見たのは初めて」とコメントした。密輸される木材の大半は直径50センチほどの高級品。カンボジアでの商品価値は100米ドル(約1万2,300円)だが、ベトナムでは最大500米ドルで販売されるという。国境通過について、近くの住民は「バイク1台当たり2.5米ドルの賄賂を支払えば、国境警備の警察官は黙認してくれる」と話している。

4. 縫製業労働者、ストライキを検討

来年の縫製セクターにおける最低賃金に不満の労働者たちが、ストライキを行うべきかどうかを話し合う予定だ。プチュンバン(カンボジアのお盆)直前の10月8日に発表された最低賃金の決定額は、それまで組合側の主張していた160ドルを大きく下回った。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Unionの代表Ath Thorn氏は、「10/21に、労働組合の代表たちが集まって、今後の方針を決める予定です。ストライキを執行する覚悟があるかどうか、互いに確かめ合います。私の知る限りでは、ほぼ全ての労働者が140ドルという賃金に満足していません」と話をした。今回の最低賃金決定の過程において、ストライキこそなかったものの、話し合いが荒れる場面も多くあった。Thorn氏のような独立系の労働組合は、組合側のメンバーのなかでも、政府の肩をもつ組合があることを非難していた。Collective Union of Movement of Workersの代表Pav Sina氏は、「政府の決定に賛成できません。私だけでなく、他の組合も同じです。カンボジアで生産をしている海外のバイヤーたちに、賃上げをサポートするように要求し、もし断られれば、ストライキを執行したいと思います」と話をした。スウェーデンの小売企業H&M社は、今回の賃上げを公の場で肯定した唯一のバイヤーであるが、発表された声明文には、「H&M社は、自分たちから進んで特定の判断を行うことはしない。(賃上げは)今後の公正な賃金制度のために、重要なステップだったと思います」と書かれていた。

5. 賃金論争続く

2016年の縫製業労働者の最低賃金が、140ドルに設定された。フン・セン首相はこれについて、「私は個人的には、もっと高い額をプッシュしていました。しかし、実際問題として、賃金が上がったことで縫製工場が別の国に移行してしまう可能性もあります。ミャンマーの最低賃金は67ドル、ラオスは80ドル、バングラデシュの経済特区は67ドルになりました。インドとネパールはいまだ低いまま。そんななか、カンボジアは数ヶ月のうちに140ドルまで上がるようになりました。賃金の安いところへ移る工場も出てくるでしょう。しかしなんとかして、彼らをカンボジアに止めなくてははいけません」と述べた。しかし、最終的に決めた最低賃金が135ドルだったにもかかわらず、さらに5ドルを上乗せし140ドルにしたのは

ブン・セン首相である。この理由を Solidarity Center の William Conklin 氏は、「2018 年の国民選挙で有利に立ちたかったからでしょう」と話した。

前回の賃上げでは、100 ドルから 128 ドルになった。雇用者側はこのとき、輸出量が減ってしまうだろう、と予想していたが、実際は 2015 年の上半期、縫製業の輸出は前年同時期と比べて 9 パーセントアップしていた。International Labor Organization は「カンボジアでオープンした工場の数は倒産した数を 16 上回っている」と 6 月に調査結果を公表したが、「(賃上げがどう影響したか)結論を出すのは時期尚早です」とも話した。また雇用者側は 140 ドルは多すぎるという主張を崩さず、「この賃上げは今後も論争の火種となるでしょう。バイヤーがもっと支払えないのであれば、賃上げに喜ぶわけにはいきません」と GMAC の事務局長 Ken Loo 氏は話した。「しかしバイヤーが、値段を上げて買ってくれる可能性は高いとは言えません。他国からもっと安く買えるというのに、なぜカンボジアを選ぶ必要があるのでしょうか」と Loo 氏は続けた。

6. GMAC 縫製業界の生産性アップを求める

カンボジアで縫製業を営む工場の連盟が、賃上げが施行されるにあたって、「生産性をあげなくてはならない」、と業界に訴えかけた。2016 年の最低賃金が 140 ドルに決まったため、GMAC は、「生産性を見直し、バイヤーたちにはカンボジアからより高い値で製品を買ってほしいと思っています」という内容の声明を発表した。GMAC の事務局長 Ken Loo 氏は、「工場を経営する費用のなかで、賃金コストはかなりを占めます。賃金が上がった影響をなるべく小さくするためにどのように生産性を上げていくか、生産に関わる人々と話をする必要があります」と話す。しかしどのように生産性を上げるのかについて具体的な方法の提案はなかった。また、今回の賃金決定のプロセスはスムーズだったとしたが、投票を放棄した 4 つの労働組合については、ルール違反だとして非難した。

Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union の代表 Ath Thorn 氏は、生産性を上げることに賛同したが、しかし工場の生産量を変えるためにはまず環境改善が必要だ、と主張した。「経営者たちはもっと考えて工場を運営するべきです。労働者への差別をやめ、短期雇用もやめる必要があります。また、年代物の機械も新しいものに買い替え、一般的なスキル講習を行う必要があります」と話をした。しかし Loo 氏は、10/20、「雇用者の方が原因で、生産性が上がらないわけではありません。原因のひとつとしてよくあるのは、担当のセクションを変えるといった小さな変更点にも、労働者たちが過剰に反応し頑固になることです。彼らの負うべき責任は大きいと思います。GMAC は来年の 9 月には、基本的な労働スキルのトレーニングセンターを開く予定ですが、そのほかの方法で生産性を上げるとなると、個々の工場のやり方によってくるでしょう」と話した。

Solidarity Center の地域部長 William Conklin 氏は、「今になって、労働者全員に協力してくれ、というのはちょっと傲慢でしょう。これまでは雇用者を味方する労働者のみ優位においてきたのですから。雇用者たちと協力することについて組合も受け入れています。これまで、雇用者のほうから本当にわかりあおうとしてくれたことはありませんでした。賃上げについては満足していますが、実際賃上げが起こると、周囲の家賃などの価格も上がってしまうのではと、心配しています」と話をした。

7. 労働組合、改革を目指す

縫製業に関わる労働組合や連盟、合わせて 9 団体が、「最低賃金が 140 ドルに決まったことは大変残念である。私たちの希望は 160 だった」と記した声明を発表し、13 項目の要求を行った。もしこの要求が受け入れられないようであれば道路を塞いで大規模なデモを行う、ということだ。要求項目のなかには、今後、労働者雇用において短期雇用契約を利用しないこと、労働組合の代表者たちに対する法的な訴えをしないこと、縫製以外のセクターにも最低賃金を定めること、食べ物や日用品の値段を上げないこと、月に 15 ドルの交通費と、1 日 1 ドルの食事補助費をだすこと、社会事業を支えること、他にも労働者の苦情には全て対処すること、などが盛り込まれている。Collective Union of Movement of Workers. 代表の Pav Sina 氏は、「これらの要求は突然思いついたものではなく、2013 年からずっと求めていたものです。しかしこの数年間は、最低賃金の件に集中するため後回しにしていました。声明文は今日中には労務省に送り、来週と再来週にも重ねて送りつけたいと思います。それでも返事がもらえなければ組合の代表者たちに電話をして、デモを決行する日取りを決めたいと思います」と話した。しかし、雇用者側はいまのところ、これらの改善に取り組む姿勢は見せていない。

8. 通勤途中の事故で、労働者が死亡

10/20、Kampong Speu 州国道 4 号線で、通勤途中の労働者が乗ったバンと貨物トラックが正面衝突事故を起こし、1 人が死亡 35 人が負傷する事故がおこった。19 歳の Chea Sovannyさんは、Samrong 地区に住む女性で、即死だったと思われる。Chbar Mon 地区の警察官 Lay Khen氏によると、事故は朝 7 時少し前に起こったという。自治体は、バンに乗

り合わせていた Generation 靴工場の労働者が数十人と、33 歳のバン運転手 Keat Sambo さんが入院中だと発表。警察官の Noy Sarith 氏は、「15 人は Sok Na 私立病院へ、14 人は Om Sarorn 私立病院へ運ばれました。また、6 人はかなり重傷なので、Kampong Speu 州立病院へ輸送されました」と発表した。

9. Teuk Chhou 動物園のおなかをすかせたアジア象

カンボジアと日本の2国間で動物交換の同意が進められているが、カンボジア側が提供予定のアジア象2匹の健康状態が悪くなってきているという。2匹の面倒を見ている NGO 団体が、動物園への立ち入りを禁止されたためである。キリとセイラは、Teuk Chhou 動物園で飼育されているが、今週、体の骨が浮き出た2匹が、柵の外の雑草を食べようとする姿が目撃されている。象を保護する活動家であり、シェムリアップ州に2匹の飼育場所を提供していた Lek Chailert 氏は、「2匹は明らかに十分な餌を与えられていません。写真を見る限り、以前よりも痩せています。本当に心配です」と話す。9月、動物保護団体 EARS Asia は、3年間像への投資を続けていたにもかかわらず、日本との動物交換に反対したために Teuk Chhou 動物園から締め出された。

10. 最近の外資の進出状況

・タイの「サンタフェ・ステーキ」、カンボジアのイオンモールに進出

11/11、ステーキ店「サンタフェ・ステーキ」を展開するKTレストランは、2017年にカンボジアに進出すると発表した。1号店は首都プノンペン中心部の大型ショッピングモール「イオンモール・プノンペン店」に出店する。売り場面積は約150平方メートル。KTはカンボジアに続いてベトナム進出を検討中で、22年までにブルネイとシンガポールを除く東南アジア各国に進出する。サンタフェはタイ国内で計80店が営業中で、今年末までに90店、16年末には120店に拡充する。さらに18年末までに計180店に増やす。KTレストランの15年売上高は12億5000万バーツとなり、年初目標の14億バーツを下回る見通し。しかし新規店の追加により16年は19億バーツ、18年は30億バーツ目標。

・丸亀製麺、カンボジア首都に1号店

11/17、飲食チェーン店経営のトリドール(神戸市)は、セルフサービス方式の讃岐うどん専門店「丸亀製麺」のカンボジア1号店を、富裕層が多く住むプノンペンのチャムカーモン区ボンケンコン地区に、グランドオープンする。今年3月に現地に設立した合弁会社トリドール(カンボジア)が運営する。

以上